

シエムリアップ MoiMoiライフ

ISSUE
116

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



小出 陽子 (Yoko KOIDE)

1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年シエムリアップにレストラン Cafe Moi Moi をオープンする（一時休業中）。同年JST（NGO：アンコール人材養成支援機構）を設立し、農村地域の支援活動始める。2013年“アンコールの都の西北”に公立のバイヨン中学校を創設。2019年には高校も併設され、現在、全校生徒820人の学校運営を行っている。

● JST ホームページ
<http://www.jst-cambodia.net>

日本にもクメール寺院が！

日本に帰省中の先日、日本に住む夫の親戚（ボル・ポト政権による混乱後、日本に逃れてきた元カンボジア人とその子孫）の法事に参加しました。場所は、神奈川県愛川町の山あいにあるクメールサマキ寺院。日本での宗教法人登録はハードルが高いとのことで、正式名称は「一般社団法人カンボジア文化センター・クメールサマキ協会」だそうですが、日本にもカンボジアのお寺があるということ、を、今回、初めて知りました。

ただし建物は、冬には隙間風が入ってくるのでは、と心配になるほど簡素な集会所建築で、在住カンボジア人による手作りとのこと。建築様式はクメール寺院とはかけ離れているとはいえ、祭壇は小さいながらもクメール寺院そのものでした。当日は、日本在住の親戚一同40人ほどが集まったのですが、カンボジア人僧侶による読経など、儀式的の流れもカンボジアと全く同じ。しかも、開始予定時

間になっても当の家族が集まらず、それを誰一人咎めることなくのんびりと待ち、一時間以上経ってからようやく始まった、というのも同じでした（笑）。参加者は、それぞれの家で腕をふるって作ったカンボジア料理を持ち寄り、僧侶に献上した後、最後に皆でいただきました。

この寺院では、お盆や寄進祭りなどカンボジアの仏教行事も行われているとのこと、その期間は、県内外からカンボジア人が集まるそうです。また、コロナ禍で生活が困窮した日本在住カンボジア人の駆け込み寺となっている他、物資の支援なども行っているようです。

カンボジアの上座部仏教寺院は、祖先や来世と繋がることができる場所でもあり、地域コミュニティの中心でもあります。カンボジア人にとって無くしてはならない存在、といっても過言ではありません。そんな寺院が日本にもあることで、カンボジアにルーツを持つ多くの人々が心強く感じていることを実感した一日でした。



クメールサマキ寺院での法事の様子